事業報告書

令和４年度

令和４年４月１日～令和５年３月３１日

学校法人 常磐会学園
認定こども園
常磐会短期大学付属茨木高美幼稚園茨木高美幼稚園

法人の概要

(1) 学校法人常磐会学園
・住　　所：大阪府大阪市平野区平野南４－６－７
・電 話 番 号：０６－６７０９－３１７０
・ファックス：０６－６７０９－２２０１
・ホームページ:https://www.tokiwakai.ac.jp/aboutus/tokiwakaigakuen
・メールアドレス:tokiwajc@skyblue.ocn.ne.jp

(2) 理事長名：岡本 和惠（おかもと かずえ）
・理事 10 人、監事 2 人 定例理事会年 12 回開催（毎月）
・評議員 25 人 定例評議員会年３回開催（5 月・2 月・3 月）

(3) 設置する部門名
・常磐会学園大学
・常磐会短期大学
・認定こども園　常磐会短期大学付属常磐会幼稚園
・幼保連携型認定こども園　常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園
・認定こども園　常磐会短期大学付属茨木高美幼稚園

認定こども園常磐会短期大学付属茨木高美幼稚園
・住　　所：大阪府茨木市小川町７－３
・電 話 番 号：０７２－６２２－２０５２
・ファックス：０７２－６２２－２０６７
・ホームページ：http://www.tokiwakai.ac.jp/ibarakitakami/index.html
・メールアドレス：ibarakitakami@seagreen.ocn.ne.jp
・定員２０７名

令和４年度　事業報告

１．園児の確保

(1)　園児見込数

・認可定員 210 名

・新園舎になり組数変更　　令和４年５月１日現在

	認可定員	園児数	組数
満３歳児	２１０	－	－
３歳児		５４	３
４歳児		６０	２
５歳児		６０	２
合　計		１７４	７

※満３歳児６名程度９月入園

(2)　ＰＲの方法

① ホームページで園の募集状況、コロナ対応について随時発信した。また工事の様子については現場責任者から最新情報を発信をしていただいた。

② 未就園児ニコニコクラスは人員配置、場所の確保等から週２回１クラスでの体制をとった。次年度への優先入園が確定するクラスであるため保護者とも密に関わり園の方針を伝えたり、子どもの育ちについても連携をとったりすることで保護者との信頼関係も築くことができた。（令和４年度ニコニコ参加者６名の内、６名が入園する。）

③ 従来開催していた未就園児への園開放は１期工事で屋上かけっこ広場が完成したので、開放する方向で考えていたが、1 学期末にコロナ感染症拡大に伴い大阪モデルがレッドステージに移行したため実施を見送った。

④ コロナ禍５月の地域行事のみが再開されたため、家庭と地域の連携事業の一環として高美太鼓の出演の依頼を受け参加した。その後の地域行事についてはすべて無くなった。

⑤ 1 号認定児の定数獲得に向けて、認定こども園への移行に伴う体制の変更、本園の教育保育、環境や遊びの大切さについて、入園説明会を従来の平日に加え土曜（予約制）も開催し入園児募集広報を行った。従来の集団説明会に加え、個別対応での相談会も実施することで、園を身近に感じ好きな遊びから学ぶ教育方針への共感を得るきっかけになるよう丁寧に行った。

⑥ 2 号 3 号認定児について茨木市と連携し定員確保を行った。認定こども園の良さと質の高い教育保育を目指していることを広めるとともに、市の利用調整の時期の分散に合わせて順次、施設見学や説明を実施している。パワーポイントを利用し園の説明を見て聞いてもらうことで個々の必要な情報を提供できた。

(3)　入園の方法

① ３歳児１号認定児に関しては、満３歳の進級児、きょうだい関係及び未就園児ニコニコクラス参加者を優先し、残りの枠を先着に受付けた。

② 幼児観察と親子面接を複数名の職員で丁寧に行った。療育を受けている子どもに関しては書類提出時に家庭での様子や療育の進行状態を聞くなどし、無理なく園生活になじめるよう保護者と話し合った。

２．教育・研究の推進

【教育目標】

“ゆたかなこころ”と“たくましいからだ”をもち主体性のある幼児の育成をめざす

・力いっぱい遊ぶ明るく元気な子ども

・なかよく助けあって遊べる子ども

・よく見、よく聞き、よく考え、自分の力でやりぬく子ども

・ 心の優しい子ども

・素直に表現する子ども

【重点課題】

・園の教育内容や子どもの育ちを保護者や地域に伝え、本園教育への理解を推進する。
・園内での研修・研究を充実させ、教職員の資質向上と保育の質の向上を図る。
・小学校や地域との連携、交流活動の充実を図る。
・建替え工事、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の中での保育環境のあり方を工夫する。
・新園舎（１期工事完成分）での新しい生活の仕方を考える。

【研究テーマ】

「主体的に活動する子どもを新園舎で育てる」

・新園舎での子どもが安心安全に過ごせるよう子どもの自発的な動線から職員間で連携を密にしてきた。子どもと約束を考え合う機会を設けたり間隔を空けて並ぶための足型表示を見直したりするなど環境構成に努めた。
・保護者への認定こども園化に向けての説明会を行う機会に保育目標の項目ごとに各クラスで写真を集めた。幼稚園の教育目標を意識した保育ができているかの確認をするきっかけとなった。
・各クラスの日常の写真や子どもの心の動きや友達との関わりの様子を丁寧に見つめたエピソードを集め、「幼児期の終わりまでにそだってほしい 10 の姿」をもとに育ちをよみとり子ども理解につながるよう定期的に話し合った。茨木市の保幼小中が推進している。主体性、非認知能力の育成についてともつながった。教師の働きかけ、環境構成のあり方など再度見直すきっかけとして講師を招き園内研修を実施した。「子どもの今もっている力」を見極め環境の再構成をする大切さを学んだ。
・地域のオーケストラ音楽演奏や人形劇鑑賞、遊びのスペシャリスト(けん玉、ラＱ名人)など多様な専門家を迎え､刺激となることで園児の遊びがつながり深まるきっかけ作りを行った。
・園内で栽培する季節の野菜など、継続した観察や子ども自身で世話ができる環境を充実させてことで、より心が揺さぶられる姿や育ちが見られた。

「教師間の連携の充実を図り、保育や仕事の効率化につなげる」

・各クラスの子どもの心の動きや友達とのかかわりの様子を丁寧に見つめたエピソード記録を集めて話し合い、主体性、非認知能力の育成と教師の働きかけについて話し合った。
・子どもの心に応える援助や環境構成の工夫、充実を図り、指導力の向上に努めた。
・インクルーシブ教育について臨床心理士(キンダーカウンセラー)の先生を交えて園内研修をすることで、担任だけでなく兼任教員との連携を密にし、みんなが過ごしやすい園内環境と指導方法を考えた。
・認定こども園移行に向けて付属園の乳児担当者を講師に招いて研修会を行った。カリキュラムや実際の乳児保育室での動線検討など考え合い、次年度より始まる１，２歳児の環境構成の充実、保育内容の検討につながった。
・園内研修した内容を作品展に合わせて掲示したり担任からのブログにより保護者向けに置き換えたりしながら保育の中の願いを発信した。年度末に「保育の芽」にまとめ発行した。

(1)　コロナと建て替え工事に伴う今まで通りではない現状を踏まえ、行事のねらいや進め方を見直し、子どもたちにとって必要な経験が積み重ねていけるよう環境を活かして工夫した。
(2)　近年コロナ禍で保護者が集うことができず、参観等で保育の現状を伝える機会が減っているため、クラスを分散して参観をする機会を設けたり、ブログで子どもの様子を写真とともに配信したりすることで、園の教育内容や子どもの育ちを発信する機会を増やし幼稚園教育への理解を図った。
(3)　特別活動として、外部講師による指導を受け、子どもの遊びが豊かになるよう実施した。
①「わらべうた遊び」（年９回、年中児対象）　②「英語で遊ぼう」（年１０回、年長児対象）
③「運動遊び」（年８回、全園児対象）　④「太鼓遊び」（年１０回、年長児対象）
「絵画遊び」は講師の体調不良により実施は無し。。
(4)　地域の教育施設（市民体育館、プラネタリウム、公園など）を活用する機会を増やした。

(5)　キンダーカウンセラー事業（月 1～2 回）を年１３回実施した。

(6)　感染予防の観点より､運動会園児席係などはクラス役員を中心にボランティアを募り協力体制を整えた他に、園職員で対策を行うとともに次年度の認定こども園化に向け長時間保育にも対応できる兼任職員の増員を行った。

(7)　月 1 回、学年ごとに絵本の貸し出しを実施し親子で絵本に親しむ機会を増やしている。３学期にエントランスホールに絵本コーナーを移設したことで、貸出の機会だけでなく、好きな遊びの中や降園時にも絵本に親しむ機会につながった。

(8)　新園舎完成の竣工式を挙行し、関係各者に報告をした。次年度 5 月には、新園舎お披露目会の時期を告知し、旧職員や卒園生、近隣の方が新園舎でともに過ごす計画をしている。

(9)　２期建て替え工事期間中に、園児や保護者が新園舎をより身近に感じ、興味関心を深めていけるよう隊長イベントや探検ツアーなどの企画を実施した。年長児の修了までに完成したので「園庭一番乗り」「降園時園庭開放」など年長の子ども、保護者が特別感をもてるよう企画した。

３．人事・組織

	令和４年度 (5 月 1 日現在)	備　　考
園　　長	1	
教　　頭	1	
主幹教諭	0	
指導教諭	3	
教　　諭	5	
専任職員	1	事務担当
兼任教諭	9	
兼任職員	4	看護師含む
合　計	２４	

４．施設・設備の整備

(1)　建物・施設

・園舎建て替え工事、令和 5 年 2 月 14 日竣工した。

(2)　教育研究用機器備品・管理機器備品

・新園舎建替えに伴い、必要な備品を購入した。

・園児管理システム「パピーナ」を導入し、新しい利用が開始した。

５．収支実績（単位：円）

年　度	事業活動収入	事業活動支出	基本金組入前 当年度収支差額	令和 4 年度学納費		
令和 2 年度	141,189,352	112,605,502	28,583,850	入園料	3 歳児	60,000 円
					4 歳児	55,000 円
					5 歳児	50,000 円
令和 3 年度	133,210,301	118,463,664	14,746,637	令和 3 年度	満 3 歳児	(月額) 3,600 円 (年額)43,200 円
					3 歳児	
					4 歳児	
					5 歳児	
令和 4 年度	491,381,921	357,304,163	134,077,758	検定料		3,000 円

６．その他

(1) 未就園児保育（ニコニコ）

募集対象児は、平成 31 年 4 月 2 日～令和 2 年 4 月 1 日生まれで他の幼稚園・保育所に在籍していない幼児とし、火・金クラスを設け 6 名とした。年間を通じて感染拡大の様子に合わせて、ニコニコクラスと在園児が同じ遊び場を共有するなど自然な交流を行った。園内でのびのびと過ごす在園児を近くで感じることで入園の不安を解消し本園への入園希望につながった。

(2) 未就園児への園庭開放（ピヨピヨ）

令和 4 年度も建て替え工事､コロナ感染拡大に伴う大阪モデルのレッドステージ移行のため、ピヨピヨの実施を見送った。

(3) 降園後のかけっこ広場、3 月以降の園庭開放を行い、保護者からも新園舎の完成を身近に感じ喜んでくださる声も多かった。

(4) 預かり保育(パオパオ)

スポーツクラブや英語教室での課外活動の空き時間、小学校の参観、懇談等の行事時での利用が多く､年間で延べ 500 人が利用した｡新 2 号認定児での利用については､毎日の利用はなく、母の就労時間に伴う必要分だけの利用が見られた。早朝 7 時 45 分から最大 18 時 45 分までの利用が出来るが 7 時 45 分から 8 時、17 時 30 分以降の利用は年間を通してほとんどない。

長期休業中の利用は 16 時 30 分に終了しているのが実態である。このような利用状態からも令和 5 年度からの 4 歳児、5 歳児の認定こども園移行に伴う在園児の 2 号認定児への移行希望者は少なかった。

(5) 課外活動

① スポーツクラブ

年中・年長児別コース（週 1 回・2 回）

※感染予防の観点から活動人数縮小のため、年少コースは再開しなかった。

本園修了の小学 1～3 年生までの希望者（週 1 回）

② 英語レッスン

年少児～小学 1 年生までの希望者（週 1 回）

(6) 保護者会クラブ活動（ハンドクラフト部・英語部）は保護者のニーズにできるだけ応え、園内に活動場所を確保した。

(7) 幼稚園事務の効率を図るため、職員室にホワイトボード、掲示板を設置したところ、日々の活動場所の交替時間、園児への配布物、ヒヤリハット事例など、教職員の伝達が明確でスムーズになった。

(8) 「学校協議会」の名称をあらため､「施設関係者評価委員会」とし、幼稚園教員、地域、保護者、有識者による意見交換を行った。